

2020年6月18日
東京海上ホールディングス株式会社

小学生向け防災啓発プログラム「ぼうさい授業（水害・土砂災害編）」を創設

東京海上ホールディングス株式会社（取締役社長 グループCEO 小宮 暁、以下「当社」）は、大雨による水害等から命を守る行動や避難生活について学ぶ小学校高学年向けの新しい防災啓発プログラム「ぼうさい授業（水害・土砂災害編）」を創設しました。これまで実施してきた「ぼうさい授業（地震・津波編）」とともに、新たな防災啓発プログラムとしてグループ社員や代理店が講師となって全国に展開し、安心・安全でレジリエントな未来づくりに貢献してまいります。

1. 開発の背景

近年激甚化する大雨や台風による水害や土砂災害から命を守るためには、日ごろから私たち一人ひとりが警戒レベルや避難場所などの防災情報を理解し、災害に備え、いざというときの避難行動につなげることが求められています。小学生が自ら水害・土砂災害のしくみを理解し、避難行動や避難生活について学ぶことにより、各家庭や学校、地域社会における災害安全の取り組みを後押しする効果が期待できます。

東京海上グループは、これまで小学生等を対象に、環境啓発プログラム「みどりの授業」や地震・津波を題材とした「ぼうさい授業（地震・津波編）」を実施してまいりました。また、中学・高校生向けにはキャリア教育プログラム「リスクと未来を考える授業」を実施してまいりました。これらの合計で、全国延べ6,500名を超えるグループ社員や代理店が講師となって約1,500回実施し、10万人を超える子どもたちが受講してきました。これらに加えて、昨今の水害等に対する防災啓発ニーズの高まりを受け、新たな防災啓発プログラムを開発しました。

新プログラムは、東北大学 災害科学国際研究所（所長 今村文彦 教授）および京都大学 防災研究所（中北英一 教授）の監修のもと設計し、水害・土砂災害発生のしくみなど災害科学に関する最新の知見を反映した内容としています。

2. 授業の内容

講義＋対話形式の45分授業で、大雨や水害・土砂災害が発生するしくみや水害等から命を守るための行動、避難所での生活について学びます。

ディスカッションのパートでは万が一避難所で過ごすことになった場合に、自分が周りの人のためにどのようなことができるのかを考え、「協力し合う」「助け合う」ことや「自ら考えて行動する」ことの大切さを学びます。

なお、授業の開催にあたっては、各学校のみなさまとの十分な連携のもと、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じながら実施致します。

【授業の流れ(45分)】

授業の内容	時間
① 大雨の降る仕組み 水害・土砂災害発生時のシミュレーション	10分
② 水害から身を守るために ハザードマップ・気象情報・警戒レベルの確認 いつ・どこに避難するか	15分
③ 「ぼうさい取り組み隊」として 避難所で自分たちに出来ること	20分

ぼうさい授業(地震・津波編)と(水害・土砂災害編)は、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標13「気候変動に具体的な対策を」の達成に貢献しています。



当社は、これからも未来を担う子どもたちへの教育・啓発プログラムの提供等を通じて、安心・安全でレジリエントな社会と未来づくりを推進してまいります。

以上

「ぼうさい授業(水害・土砂災害編)」の内容

1. なぜ、水害は起こるのだろう？

水害や土砂災害が発生する仕組みを、イラストや動画を使ってわかりやすく説明します。



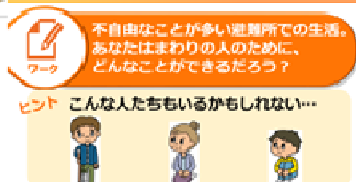
2. 情報をおつめよう

気象情報、避難情報、ハザードマップなどから自分と身の回りの人の身を守るための情報収集の方法や避難する時のポイントを紹介します。



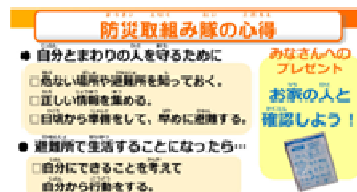
3. 避難所での生活を考えよう

避難所についてイメージしてもらい、万が一避難所で生活することになった時に周りの人のために自分にもできることは何かを話し合います。



4. まとめ

自分とまわりの人を守るためにできること、避難所での生活についてまとめます。また、必要な非常持出品を記載した「ぼうさいクリアファイル(水害・土砂災害編)」をお渡しし、ご家族との話し合いに使っていただきます。



※教材の内容は、変更となる可能性があります。